

図工美術研究委員会

1 研究テーマ

「対象への関わりを深め、表したいもののイメージを広げながら、自分の表しを豊かにしていく図工学習はどうあったらよいか」

2 研究課題

- ・ 作りたいものをイメージできにくかったり()、イメージしたものをどのように表現したらよいかわからず()、十分に満足のゆく造形活動ができない子どもたちがいる。また、見たままそっくりといった写実的な表現への評価が高く、作品に込められた作者の願いや工夫に気づきにくい()子どもたちがいる。
- ・ そこで、一人一人が作りたいもののイメージをはっきりと持つための手だてとして、ア、対象との関わりを深める活動をする。イ、表したいことを絵や言葉で表現し、友だちに聞いてもらう活動をする。ことを考えた。
また、自分にあった表現の仕方をつかむために、必要とする材料を選び、材料の特徴をつかみ、表現への生かし方を知る学習を設定することにした。
さらに、制作の途中や完成後に作品を鑑賞し合い、自分や友だちの表現のよさを味合う場面を持つことを考えた。
- ・ 各委員が、小学校、中学校それぞれの立場から意見交換しながら、「自分のイメージを広げ、材料の特徴を生かし、自分の表したいように表現できる子どもたち」の姿を願って研究を進めた。

3 指導の実際・研究の成果

研究授業実施日	平成17年 10月12日(水)		
会場校	仁礼小学校		
授業学級	2年仁組	授業者	小林 真実 教諭
実証授業	「みんなで うさぎランドを 作ろう」 (「造形遊び」・「作りたいものを作る」を一体化した題材)		
指導者	長野教育事務所 図工・美術教育支援主事	井出 寿一 先生	

- ・ 実証授業では、段ボールを材料とした造形遊びを楽しみ、段ボール素材のよさ・表し方の可能性に気づいた子どもたちが、クラスで毎日世話をしてきたうさぎのミントやゆめみと一緒にイメージの中で遊べる「うさぎランド」をつくった。
- ・ 「ちょっと聞いてタイム」(鑑賞会)で、作品の工夫について友だちに説明したり、作品を見たり説明を聞いたりすることを通して、自他の表しの良さに気づき、この材料をこんなふうに使ってみようという制作の見通しを持つことができた。
- ・ 段ボールに加えて、綿やひも、針金、竹ひご、色画用紙など、子どもたちの願いにそった材料を用意したことで、「ミントやゆめみがゆっくり休めるような綿のクッション」ができたたり、「うさぎたちをおどろかすおばけやしきの動くしかけ」が作れたり、対象への思いを深めた豊かな表現が生まれた。
- ・ 指導者からは、対象と深い関わり持たせた題材の良さ 一人一人の願いを明確にし、表現意欲を高めるためにちょっと聞いてタイムは有効 子どもの表現にあった材料選定の大切さ デジタルカメラを活用した造形遊びの評価方法 等の助言をいただいた。
- ・ 研究を通し、「対象との関わりが深まり、材料の特色を生かし、友だちと認め合い学び合う中で、充実した表現活動が生まれる」ことが明らかになった。

4 来年度への課題

- ・ 表現対象への関わりを重視する小学校と、表現材料・技法の専門性を持つ中学校とが特色を生かし合い、研究を深めた委員会のあり方を今後とも大切にしたい。
- ・ 題材や場面に合わせて、授業1単位時間の柔軟な運用を考えたい。
- ・ 作品鑑賞の内容・方法についてのいっそう研究を深めたい。